



年度末における達成度の確認を

行いましょう！(中学校・国語編)

©岡山県「ももっち」

『岡山型学習指導のスタンダード』には、補充学習のポイントの一つとして、「単元末、学期末、年度末に複合問題等を活用して、達成度を確認し、目標に達していない児童生徒には、支援を行うこと」が示されています。(p.10)

今号では、当該学年で付きたい力が身に付いているか、確認するためのチェックポイント例と達成度確認の方法例を紹介します。

チェックポイント例

※主に知識・理解に関する内容について、全国学力・学習状況調査問題で出題された内容を抜粋しています。

【1年生】

- 封筒の書き方を理解している
- 手紙の書き方を理解している
- 話合いの話題や方法を捉えることができる
- 歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直すことができる
- 漢和辞典を使って、漢字の意味を捉えられる
- 単語の類別について理解している
- 行書の特徴と楷書との違いを理解している**

【2年生】

- 文の成分の順序や照応について理解している
- 修飾語と被修飾語の照応について理解している
- 助詞の働きについて理解している
- 古典の文章と現代語訳とを対応できる
- 敬語を適切に選択することができる
- 国語辞典を使って、語句の意味を捉えられる
- 根拠を基にして自分の考えを書くことができる



全国学力・学習状況調査の問題には、「身に付けておかなければ、後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容」が取り上げられています。進級・進学しても、児童生徒が困らないように、確認をしておきましょう。

達成度確認の方法例

単元(定期)テストの選択式問題において、選択肢を工夫して誤答分析を行う例を紹介します。

※問題は、複数年度で出題されている「行書の特徴について」を取り上げています。

問題：この作品に対する助言として適切なものを次から一つ選びましょう。

- ① ㊦の部分は筆順を意識して、次の画へのつながりが分かるように書きましょう。
- ② ㊦の部分は文字全体の大きさに気を付けて、偏よりも小さく書きましょう。
- ③ ㊦の部分は点画を省略せずに、楷書の筆順どおりに横画を最初に書きましょう。
- ④ ㊦の部分は左下に向けて払い、次の字につながるように書きましょう。



選択肢として助言を設定することで、「筆順の変化」「点画の省略」などの楷書と異なる行書の特徴を正しく理解しているかを確認しやすくなります。

さらに、選択問題において、生徒がどの選択肢を選んでいるかを確認することで、生徒の学習状況やつまづきを効果的に見取ることができ、3学期の授業や補充学習に役立てることができますね。



多くの生徒は、3を選んでいるので、「点画の省略」と「筆順の変化」を授業で復習しよう。

△△さんは、4を選んでいるので、行書は、次の画へのつながりを意識して書く特徴があることを伝えよう。

〇〇さんは、2を選んでいるので、偏と旁(つくり)のバランスに気を付けて漢字練習をするように伝えよう。

参考：「平成30年度 全国学力・学習状況調査 解説資料 中学校国語」、令和2年度授業改善研修会(中・国)調査官資料

もう一押し！



選択式問題の選択肢を工夫することで、「思考力・判断力・表現力等」の達成度も確認することができます。例示した「助言(改善)する選択肢」の他にも、「複数の知識を組み合わせた選択肢」「間違い(一つだけ異なるものなど)を見つける選択肢」などが、考えられます。

令和2年度の全国調査(中・国)の選択肢問題も参考になります。ぜひご一読ください。